

科目名	地域・在宅看護方法論 I	対象学年・時期	1年・後期
講師	専任教員	単位数・時間数	1単位・15時間
講義概要	<p>ディプロマポリシー4,5に基づく。日本における保健医療福祉の動向は、要介護人口の増加と認知症および精神科疾患の増加、医療的ケア児の増加に対応するために、地域包括ケアシステムが整備されている。地域で暮らす人々が健康を維持向上、または最期までその人らしく生活するためには、法・制度による資源を使うことや多職種・多機関との連携が望まれる。</p> <p>本科目では、対象の「暮らすこと、生きること」を支えるためのシステムや施策、資源とその活用について学び、対象に合わせてマネジメントする力を身につける。</p>		
授業形態	講義、グループワーク		
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域・在宅看護における個人・家族を対象とした看護の特徴を理解できる 2. 地域で暮らすことを支える制度について理解し、対象が望む暮らしに向けた活用を考えられる 3. 地域で暮らすことを支えるための多職種連携・協働の意義と方法が理解できる 4. 地域・在宅看護におけるケアマネジメントの必要性が理解できる 		
授業計画	<p>1回目：地域・在宅看護の対象と支援 家族システム理論、在宅療養者の家族の看護、ジェノグラムの活用</p> <p>2回目：地域・在宅看護にかかわる制度とその活用 介護保険制度・医療保険制度、訪問看護制度、さまざまな法制度</p> <p>3回目：地域包括ケアシステム ケアマネジメントと社会資源の活用、多職種連携・協働</p> <p>4回目：地域・在宅看護におけるマネジメント（演習：グループワーク①）</p> <p>5回目：地域・在宅看護におけるマネジメント（演習：グループワーク②）</p> <p>6回目：地域・在宅看護におけるマネジメント 発表会</p> <p>7回目：事例のまとめ</p> <p>8回目：終講試験</p>		
使用テキスト・参考書	<p>①系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[1]地域・在宅看護論 I 地域・在宅看護の基盤 第6版 医学書院</p> <p>②系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[2]地域・在宅看護論 II 地域・在宅看護の実践 第6版 医学書院</p>		
事前学修・事後学修 (学習を促進できる学修)	<p>当該箇所をテキストで読み授業に臨んでください。 その他の事前学習は必要時授業中にお伝えします。</p>		
評価基準・評価方法	筆記試験		
備考	<p>グループワークでは積極的に取り組み、自分の考えを相手に伝え、相手の考えをよく聞きましょう。</p>		